酔って寝た友人の背中に、彼女ではない名前を落書きした

いちは

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

酔って寝た友人の背中に、彼女ではない名前を落書きした

【コード】

N9240L

【作者名】

いちは

【あらすじ】

酔いつぶれていたはずらされた友人の話。

4年前、酔いつぶれてしまった友人の背中に丸文字で落書きした。

「浮気しちやいやヨ！！ カオリ」

仲間5人で爆笑しながら、彼の背中の写真を撮った。

数日後。

友人は彼女と非常に険悪になった。

彼女は背中の落書きについて、彼を問い詰めてはいないようだった。

女のプライド、だろうか。

落書きのことを、俺たちは彼には言いだせなかった。

さらに数日後。

友人は彼女と別れるかもしれないと言いだした。

彼には、彼女の不機嫌の理由がさっぱり分からないようだった。それもそうだ。

この状態になって、俺たちも動揺し始めた。

3年近く付き合ってきた二人を、破局に導こうとしているのは、俺たちの悪ふざけの落書きだったからだ、多分。

いや、多分じゃないか。

数週間後。

合コン三昧の彼がいた。

半ばヤケッパチに遊びまくる彼を見て、俺たちは胸を痛めた。合コンで酔いつぶれた彼の背中に、

「ゴメンよ」「許してくれ」「すまん」「申し訳ない」「

カオリ」
と寄せ書きをした。
そして、やはり爆笑しながら写真を撮った。

数カ月後。

元彼女は、やはり耐えきれなかったのだろうか。

「カオリって誰よ」

と彼を問い詰めたらしい。

その時になって、彼は初めて気付いたのだった。

俺たちの落書きに。

だが、彼は俺たちに対して怒らなかった。

彼女に対して言い訳もしなかったようだ。

4年後、つまりつい最近。

彼と彼女から、結婚式の招待状が届いた。

結婚式に参加した俺たち悪い友人5名。

披露宴での出し物は、誰が言いたすともなく決まっていた。

フンドシ姿にTシャツでステージ上がる俺たち。

一気にTシャツを脱ぎ捨てて、新郎新婦に背中を向けた。

背中には、お互いにマジックでデカデカと書いた、

「お」「め」「で」「と」「う」

彼だけが大笑。

不思議そうな新婦に、彼が顔を寄せて何か話していた。

みるみるうちに泣き出して、それから笑いだして、半泣き半笑いの

彼女。

きよとんとした出席者たち。

新婦が、笑ったり泣いたりしながら、ステージまでやって来た。

それから。

全員ビンタされた。

落書き事件から4年目にして、俺たちの罪は洗い流されたのだ。

二次会で酔いつぶれた新郎の背中に、

「奥さん、別れてください。カオリ」

と書いたことは言うまでもない。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9240/>

酔って寝た友人の背中に、彼女ではない名前を落書きした

2010年10月15日17時17分発行